

# 三大疾病対策を強化

## 孝仁会、札幌に「北海道大野記念病院」

社会医療法人孝仁会（釧路市、斎藤孝次理事長）が、札幌市西区宮の沢に、心臓血管外科や脳神経外科など21科を備えた総合病院「北海道大野記念病院」を開設した。道内でも最先端の医療機器を導入し、がん、脳卒中、心臓病の三大疾病と運動器疾患を中心とした高度急性期医療機関を道都で展開する。（佐竹直子）

## 21科 最先端の機器導入

孝仁会は2014年6月、札幌市で心臓血管センター、札幌第一病院とも合併。16年10月15日に旧大野病院を移転新築した同記念病院を開設した。新病院は鉄筋コンクリート7階建て、延べ床面積2万6700平方メートル。病床数



孝仁会が札幌市に開設した北海道大野記念病院

276床。個室化した集中治療室（ICU）18室、手術室を8室備え、手術中に磁気共鳴画像装置（MRI）が撮影できる設備や、外科手術支援ロボット「ダビンチ」の最新機種を導入。放射線治療科を新設し、ロボットアームの先に小型の放射線治療装置を搭載した「サイバーナイフ」や放射線治療装置を搭載した

276床。個室化した集中治療室（ICU）18室、手術室を8室備え、手術中に磁気共鳴画像装置（MRI）が撮影できる設備や、外科手術支援ロボット「ダビンチ」の最新機種を導入。放射線治療科を新設し、ロボットアームの先に小型の放射線治療装置を搭載した「サイバーナイフ」や放射線治療装置を搭載した

線を複数方向からがん細胞に照射する「トモセラピー」などの先端機器を取り入れ、2018年夏には陽子線治療も始める予定だ。心臓循環器科で定評のある旧大野病院に、孝仁会が主力とする脳神経外科などを加えることで三大疾病対策を強化することが新病院開設の狙い。整形外科、糖

尿病内科、泌尿器科、放射線治療科など21科に医師40人を配置。脳ドック、心臓ドック、画像でがんの位置や大きさを調べることができる「PET-CT検査」を導入したがドックなどを取り入れた健診事業にも重点を置く。開院から2カ月間で外来

社会医療法人孝仁会（釧路市）の斎藤孝次理事長（68）に、北海道大野記念病院（札幌市）開院による、釧路根室地域への波及効果について聞いた。（佐竹直子）



「釧路医療の底上げにもつなげたい」と話す斎藤孝次理事長

開院から2カ月余り。状況はいかがですか。一開院から2カ月で外来には1万4千人が訪れました。3天疾病や高度急性期医療への対応に期待されていると手

「開院から2カ月余り。状況はいかがですか。一開院から2カ月で外来には1万4千人が訪れました。3天疾病や高度急性期医療への対応に期待されていると手

## 釧根へ医師派遣増やす 将来は福祉でも交流を

足が常態化しています。人口10万人あたりの医師数（2014年末）は、全道平均230.2人に対し、釧路管内は170.4人。根室は103.9人と全道平均の半分以下です。釧路孝仁会記念病院では現在、市立根室病院の脳神経外科に週2回、整形外科に週2回、循環器内科に2カ月

一度医師を派遣するほか、外科にも不定期に派遣されています。羅臼町の知床らうす国保診療所も指定管理者として運営していますが、釧路の病院内だけでは医師派遣のやりくりが大変。今後は大野記念病院も派遣のやりくりに組み入れ、各地への医師派遣回数や人数を増やしたい。長期的に地域医療にあたる医師の確保は難しくても、一定期間の派遣であれば現実的。具体的な派遣方法や開始時期などは札幌の病院の態勢が落ち着いてから検討する。

「道東で医師を募っても残念ながらなかなか集まりません。しかし札幌の最先端技術を要した病院は集めやすい。」

「医療、福祉、介護が一体となった包括的なケアシステムを構築したい。グループの社会福祉法人孝仁会では、6月に札幌市東区東来里に80床の特別養護老人ホームをオープンします。介護部門も人材不足が課題。将来的には福祉部門でも釧路と札幌の人的交流を進められたら」と考えます。」

かわら版